

東武グループでは、これからの未来を考え、森林と生物多様性保全に取り組んでいます。

## ◆森林保全

### 1 社有林での森林保全と利活用の取り組み

森林は国土の保全、水資源の涵養、災害の防止、生物多様性の保全・形成等の様々な機能を持ち、中でもCO<sub>2</sub>を吸収する機能は、地球温暖化防止に大きな役割を担っています。

東武鉄道では栃木県、群馬県等に所在する社有林を適切に維持管理しています。このうち栃木県宇都宮市の社有林においては、地元森林組合の協力を得て実施した間伐によるCO<sub>2</sub>吸収量について、オフセット・クレジットの認証を取得しています。

取得したクレジットは、東武グループをはじめとした企業・団体活動で生じるCO<sub>2</sub>排出量とのオフセットに使われています。



クレジット対象の社有林(栃木県宇都宮市)



間伐実施状況



間伐材の切り出し

オフセット・クレジット対象の社有山林では、間伐のほか下刈り・枝打ちなど適正な管理が引き続き実施されており、この管理により吸収されたCO<sub>2</sub>について、経済産業省が所管する国内クレジット制度のもとで、あらためて森林分野の吸収系のプロジェクトとして登録承認され、オフセット・クレジット(J-クレジット)の認証(2023年9月)を得ています。

なお、J-クレジットの売買、流通は従前、相対取引若しくは政府による入札販売に限られていましたが、2023年10月から東京証券取引所において開設された「カーボン・クレジット市場」の取引所を通じた売買がはじまり、当社が認証取得したオフセット・クレジット(J-クレジット/J-VER)に関し、取引所への参加登録を行っています。



浅草駅 改札回り間伐材活用



浅草駅 ホーム間伐材活用(ベンチ)



東武日光駅 待合室間伐材活用(ベンチ)

社有林で切り出された間伐材は、2023年7月から運行開始したスペースXに合わせた、浅草駅及び東武日光駅での駅リニューアル工事において、当社初の駅のベンチ等の材料として活用しました。

### 2 とうぶの森 とちぎ中央

東武鉄道では沿線自治体との連携により、環境保全のため様々な取り組みを推進しています。2013年度から栃木県壬生町にある社有林「とうぶの森 とちぎ中央」において、栃木県企業局・壬生町と協同で森林保全活動に取り組んでいます。

活動では壬生町の小学生も参加して、紙芝居を使った里山整備の学習、「もやかき」作業の体験や自然観察会、ドローンによる上空からの里山観察も行っています。身近な里山にたくさんの動植物、昆虫がいることを学ぶ場にもなっています。



森林保全活動に参加されたみなさま



自然観察会



「もやかき」